

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもリハビリセンターIllumination		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各専門職スタッフによる神経科学や発達科学など科学的根拠(エビデンスレベル)に基づいたより専門的で質の高い小児リハビリや呼吸循環器リハビリ、リハビリ要素を含む専門的な発達支援、安心安全な医療的ケアの実施が可能。	継続した専門資格の取得や学術大会への発表と参加を行い日々研鑽に努めている。事業所内の研修会や法人内での認定制度を設け全職員が目標を持って取り組んでいる。また、科学的根拠(エビデンスレベル)に基づいてCO-OPアプローチやゲーミフィケーションを実施しつつ、歩行リハビリのためのトレッドミル機器の導入を行い、より質の高い歩行リハビリの提供を行っている。	「保護者コミュニティconnect」や地域の関わりである「子どもフェス」の開催を通して発達支援について様々な方への発信を継続し、医療機関や関連職種と連携しながら、保護者様も自宅取り組めるリハビリや支援方法、介助方法を動画などをを用いて発信していく。
2	保護者様の声に耳を傾けながらコミュニケーションを図り、ニーズに沿った支援の提供を行うと同時に相談支援事業所をはじめとする医療機関や保育園・幼稚園・認定こども園・学校との連携を密に行っている。	送迎時や公式LINE、連携アプリを通して常時連絡体制を取っており、職員間で情報共有の実施と支援会議への参加や退院前カンファレンスにも継続的に参加を行っている。保護者様のニーズにも適時対応し、運動会など学校行事において歩行や介助方法の指導や環境調整にも取り組んでいる。	個別支援計画書の提出だけでなく、当事業所で作成しているリハビリ報告書や看護計画書の提出を行いながらシームレスな情報共有を図っている。関係機関との連携を強化するためのツールも検討していく。
3	保護者様の働き方支援やきょうだい児の対応も視野に入れており、保護者様が笑顔で日々の生活や就労が送れるよう支援を行っている。	保護者様の希望に柔軟に対応しつつ、変更がある場合などは適時相談支援事業所など関連職種との連携を図りながら適切な支援の提供を行っている。	定期的なアンケートの実施や保護者コミュニティの開催など、コミュニケーションを図る機会を設け、随時悩みや相談を受けられる体制作りの強化を継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所にて地域の方を対象とした「子どもフェス」を開催し地域の子どもとの交流の機会を設けているが、事業所外での交流の機会を設けることが必要と思う。	屋外活動などを通じた事業所外での連携を強化していく必要性がある反面、感染などの社会情勢を視野に入れながら利用児の心身状態を把握しつつ行動を行う必要がある。	事業継続計画(BCP)委員会や感染対策委員会をもとに研究や訓練を日々強化していきながら地域の感染状況など最新の情報を取り入れ、子ども達への感染対策を徹底し取り組む必要がある。
2			
3			